

木工機
金沢支店

食品工場向け外気処理提案を強化

自然派H G空調で地域課題へ対応

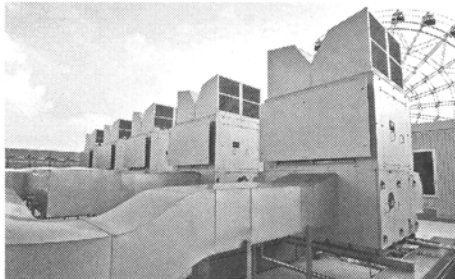


能田 智史 社長

業務用・産業用空調システムメーカーの木村工業（社長＝木村晃氏、本社・大阪市中央区）の金沢支店（支店長＝能田智史氏、所在地・金沢市広岡1丁目1-35）は、北陸3県と新潟県を管轄し、地域に根差した営業活動を展開している。官公庁施設の更新需要に対応するとともに、近年は外気処理や工場空調の提案を積み重ね、事業基盤を拡大。今年4月には営業所から支店へ昇格し、新潟県内でも食品工場をはじめとする産業分野の開拓に力を注ぐ。

能田智史支店長は支店昇格について「これまで以上に責任感を持って取り組み、新しい分野にも積極的に挑戦していきたい」と語る。従来製品の更新需要を着実に取り込みながら、新たな製品や用途の提案を続け、支店としてさらなる市場開拓を目指すとともに、顧客が抱える課題の解決につながる提案を進める。

新潟県内では足元、官公庁施設における空調・換気設備の更新や中小規模案件が中心となっている。案件の規模や動きには地域による違いもあり、各地域の産業特性を捉えながら提案機会の創出を図る。



商業施設の厨房システムに納入された立形ルーフトップ外調機

県土が広い新潟県は、上越、中越、下越で産業構造や市場環境が異なる。新潟市周辺や中越地区に建築需要が集まる一方、上越地区には化学関連の工場やプラントが立地する。県内では土木工事の比重が大きく、同社が対象とする建築設備案件は限られた地域に集中する傾向がある。

新潟県内では再開発が進んでおり、同支店は今後の建築需要の動向を注視する。併せて、地域産業に根差した注力分野の一つに位置付けるのが食品工場だ。新潟県には全国的に知名度の高い菓子・食品メーカーをはじめ、大小さまざまな食品工場が立地する。近年の外気温上昇に伴い、製造環境の改善や品質管理を器台数が増え、初期投資が課題となる場合も多い。「暑さや湿度への問題意識は高まっているが、工場の規模が大きいため、全面的な導入には慎重な計画が必要となるケースもある。対象となる空間や工程を見極め、現実的な提案につなげる必要がある（同）と捉える。

設計事務所などから「木工機なら何かあるだろう」と相談を受ける機会も増えているという。能田支店長は「そんな無茶振りをされても、思うこともある」と冗談めかしながら、これまで新しい製品や考え方を提案してきたことへの期待の表れと受け止める。こうした課題への対応を含め、同社が中長期的に訴求を進めるのが「自然派H G空調」だ。水やH P、熱回収技術などを適材適所で活用し、快適性と省エネ性の両立を図る同社独自の空調思想である。金沢支店でも、新潟県内の地域特性を踏まえた提案を進める。

同支店では、食品をはじめとする工場の陽圧化を有力な切り口に位置付ける。高温多湿の外気を適切に処理し、工場内への熱や湿気の流入を抑えることで、製造環境と労働環境の改善につなげる。併せて、水冷システムを活用する「全天候型空調」の提案力を高め、建物や用途に応じた展開を図る。

直近では長岡市内の工場に、寒冷地の冬季運転に配慮したオプション機能を搭載した立形ルーフトップ外調機を複数台納入した。導入後の評価を受け、同一企業の別拠点でも同様の空調方式が検討されるなど、導入実績が次の提案につながる動きも出ている。

今後は県内の設備設計事務所や設備工事会社との接点を広げるとともに、同社の他拠点とも連携して情報収集を進める。能田支店長は「暑熱対策は待ったなしの課題で、相談を受けるとすぐにも実施したいというお客様が多い。設備工事会社などとも協力し、工場空調の提案先を開拓していきたい」と意欲を示した。